

緑のしるべ

～冬号～

令和4年12月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲541

TEL 029(892)2934

FAX 029(892)6684

mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp

スマート農業現地検討会を開催しました！



茨城県では、儲かる農業の実現に向けて、生産性の高い大規模水田農業経営体の育成に取り組んでいます。水稻栽培に関しては経営の効率化を進める手段として、様々な農業機械や営農ツール等、ICTの導入が急速に進んでいます。

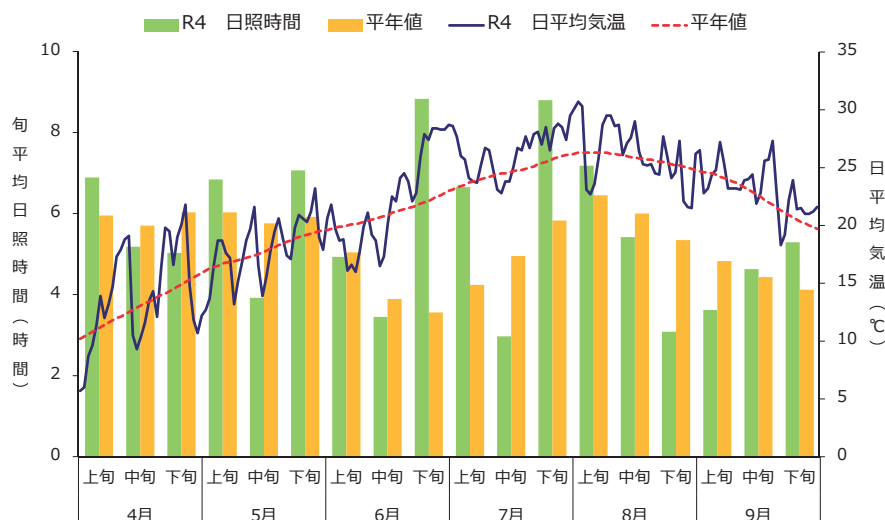
そこで、普及センター管内で水稻を主な経営品目とする農業者や関係機関等に呼びかけ、7月11日に河内町内でスマート農業現地検討会を開催しました。当日は、会議室にて営農管理システムおよび栽培管理支援システムの概要を説明した後、現地圃場へ移動して農業用ドローンでの追肥散布作業を実演しました。散布作業の実演では、ドローン本体の性能や作業性等に触れながら、実際に肥料の散布時間を計測し、どの程度の省力化が見込めるかを説明しました。

普及センターでは、栽培技術や経営に合わせた新たな情報提供を行うことで、経営規模が拡大していく水田農業経営体を今後も支援していきます。

令和4年産米を振り返る（定点圃場調査結果より）

気象と生育

4月上旬の気温が高く、育苗はおおむね順調に進みました。移植以降の生育も順調でしたが、6月上旬～中旬が低温となり、生育が遅延するとともに、いもち病が発生しやすい準好適条件となる日があり、葉いもちの病害が発生している圃場がみられました。



図：水稻生育期間の気温・日照時間の推移（龍ヶ崎地点：平年値は H3～R2 の平均）

しかし、6月下旬から8月中旬まで高温で推移したことにより生育が進み、出穂期は早生・中生品種ともにやや早い～平年並、成熟期は早生品種でやや早いとなりました。

収量・品質

あきたこまちでは平年より穂数が多く、一穂粒数が少なく、登熟歩合が低く、千粒重がやや重くなり、収量は607kg/10aと平年より多くなりました（平年比103%）。コシヒカリは圃場ごとに傾向が異なりましたが平均すると、平年より穂数がやや少なく、一穂粒数がやや少なく、登熟歩合がやや低く、千粒重がやや軽くなり、収量は508kg/10aと平年より少なくなりました（平年比95～99%）。

本年は、6月下旬から8月中旬（早生・中生品種の出穂期前後の期間）が高温で推移したことで、平年より乳白粒と基部未熟粒の発生が多くみられました。近年は高温となる年が多い傾向があり、高品質生産のためには「ふくまる」のような高温耐性品種を作付けするなどの対策が必要となります。また、紋枯病の発生が多く圃場で確認され、一部の圃場では収量・品質に影響したとみられます。病害虫は年によって発生程度が異なります。茨城県病害虫防除所から出されている病害虫発生予察情報等を利用し、適時防除に努めましょう。（「茨城県 病害虫発生予察情報」で[検索](#)）

表：令和4年度水稻定点圃場における生育および収量

品種	場所	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
あきた こまち	稲敷市	本年	4/24	7/11	8/18	86	18.9	468	80	74	607
	下須田	平年	4/28	7/16	8/23	92	18.4	411	85	82	591
	稲敷市	本年	4/29	7/25	9/3	88	19.6	415	76	60	506
	浮島	平年	5/4	7/28	9/6	92	19.7	421	81	68	534
コシ ヒカリ	美浦村	本年	5/6	7/29	9/8	92	19.7	385	83	70	534
	木原	平年	5/9	7/31	9/8	92	18.9	420	85	71	549
	龍ヶ崎市	本年	5/24	8/6	9/21	97	19.8	400	85	65	484
	長峰町	平年	5/14	8/2	9/11	100	19.1	437	82	58	489

注) 平年は H29～R3 の平均。収量および千粒重は 1.85mm 篩目調製、15%水分換算重。

阿見町のかんしょ生産振興

阿見町では耕作放棄地解消作物のひとつとして、かんしょ生産を推進しています。普及センターでは町や関係機関と連携して先進地視察や現地研修会等の実施により、かんしょ導入を支援しています。

今年度は8月25日に「阿見町かんしょセミナー」を開催し、主要な病害虫の防除方法や収穫時の注意点に加え、今後の生産拡大に伴い必要性が高まるキュアリング処理貯蔵技術について説明しました。セミナー後は、「かんしょ生産拡大推進会議」が開催され、今後の生産拡大に向けて課題となることを参加者で共有しました。

関係機関が密に連携して生産を推進してきたことで町のかんしょ作付面積は年々増加し、令和4年産では約27haとなり、令和元年の約8haから3倍以上になりました。

普及センターでは今後、育苗指導を強化するとともに、かんしょと他品目の輪作体系経営モデルを確立することで、かんしょの生産を振興していきます。



かんしょセミナーの様子

河内町のさといも生産振興

JA 稲敷西部さといも部会は、令和2年12月に設立されました。河内町とJA 稲敷西部支店では、水田の転作作物として「さといも」を推進しており、さといも栽培が初めての生産者でも取組みやすくするため、栽培で使用する畝上げ同時マルチ張り機、いも掘取り機、毛羽取り選別機、親いも子いも分離機を部会で購入し、部会員に貸出しています。



栃木県での視察研修

さといも部会では、収量品質向上のため、普及センターとともに栽培の省力化を図る基肥一発肥料試験の実施や、6月に追肥の現地検討会、7月に栃木県で視察研修を行いました。

視察研修では、近年、さといも栽培で導入されている湛水栽培について学びました。湛水状態にすることで、収量品質が向上し、連作も可能になると言われています。

普及センターでは、今後も町・JAとともに水田転作としてのさといも生産振興を支援していきます。

稲敷地域農業学園「農業簿記・経営分析講座」を開催

10月18日に稲敷合同庁舎会議室において、令和4年度第4回稲敷地域農業学園「農業簿記・経営分析講座」を開催しました。

当日は普及センター職員が講義を行い、農業法人に雇用されている方を含む9名の農業学園生が農業簿記の基礎および経営分析の手法について学びました。

講座を通して、農業を始めて間もない方でも、簿記記帳や経営分析への関心が高いことがうかがえました。

経営分析は自分で記帳しているかどうかに限らず、全ての農業経営者が自分の経営について理解するために重要です。

引き続き、普及センターでは、新規就農者の安定した農業経営の確立に向けて支援していきます。



当日の講義の様子

難防除「雑草イネ」の発生に注意してください！

「雑草イネ」とは、栽培品種とは異なる、圃場内に自生するイネの総称です。脱粒性が高く、成熟後すぐに圃場に籾が落ちるため、気づいた時には圃場にまん延している場合があります。特にまん延圃場では、肥料成分が収奪されてしまい、発生が甚大になると収量が1俵程まで減収することもあります。また、玄米が赤いため、収穫物に混入すると等級低下の原因になります。

栽培品種と同じイネであるため、通常の栽培方法では防除することが難しく、1株が次年度には数百株に増えてしまうこともあるので、早期発見、早期防除が重要です。稲敷地域でも発生しており、産地全体の問題となりつつあります。発生が疑わしい圃場に心当たりがある際は、普及センターへご相談ください。



- ① 成熟とともに脱粒し、次年の発生源となる
- ② 脱粒後は穂が立ち上がるため、視認しやすい
- ③ 芒が長く、ふ先色が赤いタイプや栽培種との見分けがつかないタイプなど、複数種が発生している
- ④ 玄米が赤く、混入により等級が低下する
- ⑤ まん延している圃場（赤丸の部分）も稲敷地域で見られる

農業三士新規認定者紹介

<農業経営士>

地域農業の振興を図るため、農業の担い手育成と地域リーダーとしての活動を行う優れた農業経営者を知事が認定するものです。今年度は1名の方が新たに認定されました。

中島 悟さん（阿見町 露地野菜）

阿見町で主にかんしょを生産し、干し芋や焼き芋に加工することで付加価値を高めて販売しています。また、令和4年度から阿見町農業委員を務めています。



農業経営士 中島氏

<青年農業士>

20～30代の農業経営者で、地域農業の中核的な担い手として、知事が認定するものです。今年度は1名の方が新たに認定されました。

金澤 永起さん（河内町 施設園芸）

河内町で主に花き、野菜苗を生産しており、直売所では四季折々の色鮮やかな花々を販売しています。「地域、人の役に立てる農業」を経営理念に、地域雇用の創出などに取組んでいます。



青年農業士 金澤氏

農業三士退任者の紹介

農業経営士 横張清彦さん（阿見町） 女性農業士 栗山京子さん（河内町）
 青年農業士 木村裕一さん（龍ヶ崎市） ありがとうございました